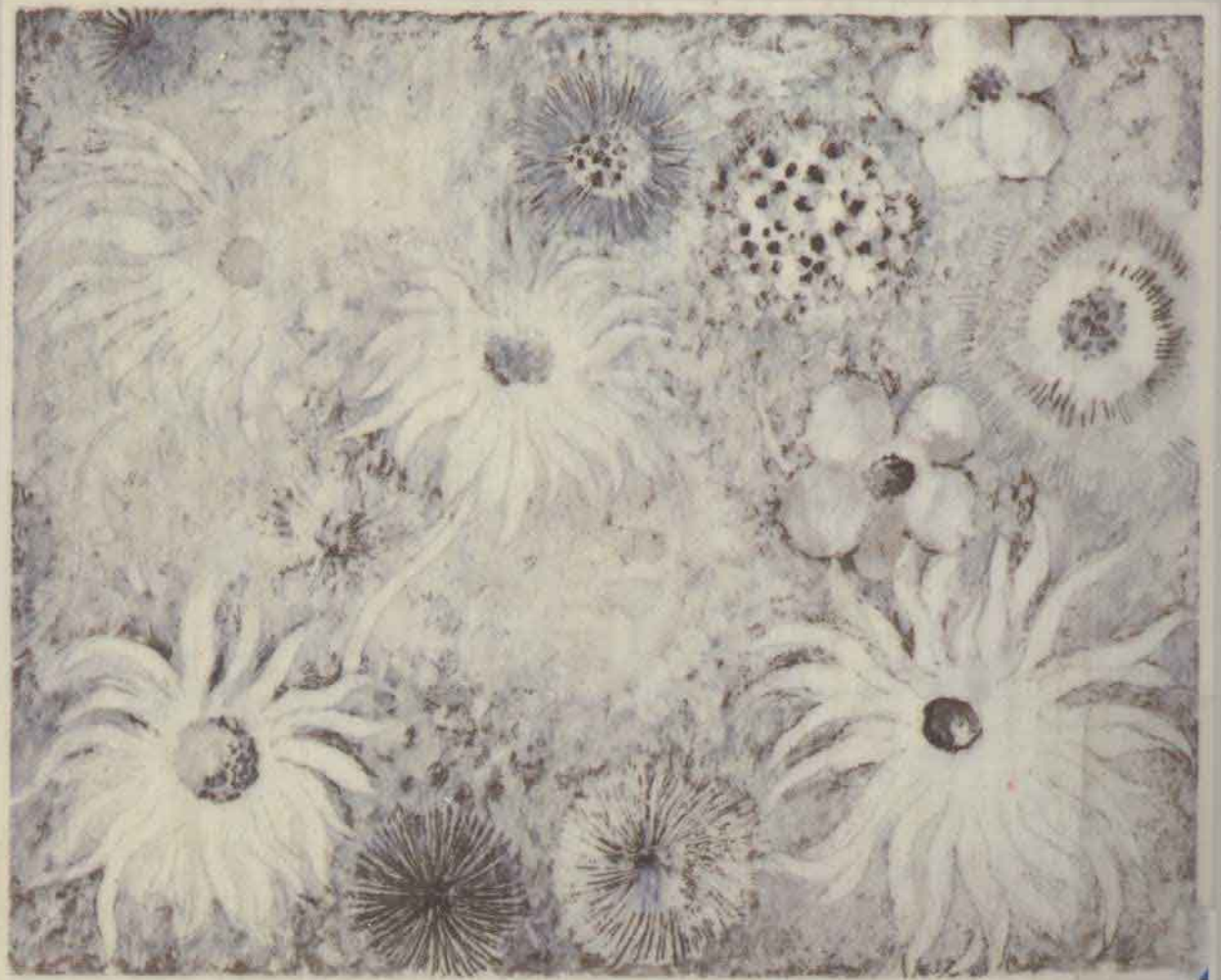


# 愛の試み

福永武彦



新潮文庫

あい 愛 の 試 み

定価はカバーに表示してあります。

新潮文庫 草 115 F

昭和五十年五月二十日印刷  
昭和五十年五月二十六日発行

著者 福永武彦

発行者 佐藤亮一

発行所 株式会社 新潮社

郵便番号 一六二  
東京都新宿区矢来町七一  
電話 業務部(〇三)(二六六)五一一一  
編集部(〇三)(二六六)五四二一  
振替 東京四一八〇八番

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付  
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

新潮文庫

愛の試み

福永武彦著

新潮社版

2264



## 初めに

僕は愛について語りたいと思う。愛について語ることはやさしくはない。それは殆ど人生の深奥に關つていて、僕等を生かしている強力な動機の一つである。人は、愛のある状態に生きるか、愛のない状態に生きるか、殆どこの二者のいずれかに属している。愛のある状態と言っても、そこには自己への愛に始まって、地上での悩み多い他者への愛を経て、神への愛に終るさまざまの場合があるだろう。僕はそれを一つ一つ解きほぐして語ることは出来ない。僕は心理学者でも、教育家でも、道徳家でも、信仰者でもない。僕はただ、人間が生きるために他者を求めて行くその魂の願いのようなものが、生きるための人間の希望の一つであると考え。僕が愛という場合に、それは常に孤独と相対的なもの、人間の根源的なものである。

愛といったが、僕は主として異性への愛、恋愛について語ることになるだろう。恋愛の外側を囲んでいるきらびやかな飾りを取り去るなら、恋愛の最も大事な部分も、やはりこの厳肅な愛という言葉で表すことが出来る。恋人を愛することは、その純粋な形に於て、母親を愛し、友人を愛し、同朋を愛することと同じ源から出ている。一体愛という言葉の語源には、*agape* と *eros*

との二つの言葉がある。アガペーは兄弟愛であり、エロースは欲望としての愛である。前者は静的なもの、後者は動的なものとも言える。僕は恋愛の中にも、この静的なものを見、それが現実と触れ合うところに注目する。

断るまでもなく、僕は格別自信があつてこの稿を始めるわけではない。僕は恋愛小説のエクスパートでもないし、況や恋愛のエクスパートでもない。しかしすべて愛というものは最も人間的なものだし、それを語るために特殊の経験が必要だということはないだろう。僕はただ愛の発生から終りに至る過程を、——愛の意識、その持続、その作用、その世界を、僕なりに観察してみたいと思う。

このエッセイがあまりに観念的に過ぎることのないように、僕はそのところどころに、現実から取って来た「挿話」を加えることにした。しかしこの部分はすべて小説家のフィクションなのだから、人はそのモデルを穿鑿しない方がいいだろうと思う。

目  
次

初めに	三
孤独	一一
内なる世界	一五
釣のあと(挿話)	二〇
エゴ	二五
星雲的	二六
神秘	三一
虚像	三四
花火(挿話)	三六
時間	四三
初恋	四四
細い肩(挿話)	五〇



人間的	二四
情熱	二五
女優(挿話)	二六
所有	二六
自覚	二七
理解	二七
盲点(挿話)	二九
迷路	二九
深淵	二九
音楽会(挿話)	三〇
快樂	三〇
燃燒	三〇

雪の浅間(挿話)	一〇五
調和	一〇九
持続	一一三
歲月(挿話)	一二七
統一	一二三
理想	一二五
融晶作用	一二八
砂浜にて(挿話)	一三一
失恋	一三六
愛の試み	一四〇

解説 竹西寛子

愛  
の  
試  
み

夜よるわれ床とこにありて我わがこころ心の愛する者を  
たづねしが尋たづねたれども得ず。

「雅歌」第三章、一

## 孤 独

独  
人は孤独のうちに生れて来る。恐らくは孤独のうちに死ぬだろう。僕等が意識していると否とに拘らず、人間は常に孤独である。それは人間の弱さでも何でもない、謂わば生きることの本質的な地盤である。

孤  
僕等は通常、孤独であることを忘れて生活している。現実には常に流れて行き、僕等はさまざまの経験に洗われ、視野は絶えず外界に向って開いている。僕等に接触する外界の事象が、或いは重たく、或いは軽く、次々に僕等の内部に経験として沈澱し、時間によって少しずつ洗い流され、新しい忘却が古い忘却の上に積み重なって行くにつれて、僕等はそれを生きていることだと思ひ、そのような生きかた、謂わば外界によって生かされている生きかたに、何の疑いも持たぬ。勿論その場合にも、エゴは常に働いている。僕等の感覚は外界の事象から敏感に快楽を抄い取り、僕等の理性は既成の習慣や、道徳や、他人の意見や、輿論や、自分の判断などを綜合して、無限にある経験の中から自分にふさわしいものだけを選び分ける。そういうエゴの活動が活潑に行われ、時間の流れがスムーズに、停滞なく、経験を乗せて運ばれて行く時に、人はその生活に満足して

自分の中にある世界の存在を忘れる。この時、内なる世界は単に外界の反射にすぎず、魂そのものの微妙な息づかいは自分自身に聞えてはいない。僕にとって、それを真に生きている状態と呼ぶことは出来ない。

しかし僕等は、日常の騒がしい雑音の中に、ふと自分たちの魂のかすかな息づかいを聴くのだ。或る時はそれがごく些細なこと、例えばビルの屋上から眺められた白い雲のかたちとか、海の向うに僅かに見えるマストとか、道端に咲いた小さな草花とかであるかもしれない。或る時はまた他人との喧いや、死亡通知や、身体の異常感や、仕事の失敗などが、心の中に空虚な部分をつくり上げて、僕等をして否応なしにそこを覗き込ませるのかもしれない。そういう時に、今まで僕等の外側を自動的、物理的に流れていた時間は、最早僕等とは縁のないものになる。そこでは時間止まる、或いは時間はまったく別の次元を流れ始める。僕等は記憶の中に帰って行き、嘗て経験したことを新しい視野から眺めるか、或いは未来を想像して、自分のかくあるべき像をその画面に映し出す。人がもしその時孤独を感じているならば、現在の状態と較べて、過去の映像は常により明るく、未来の映像は常により暗く、より悲しく映る。孤独というものは、心の鎖された状態としては、常にペシミスティックである。

僕等は親しくした人間の突然の死を聞く。或いは恋人が自分から離れて行ったことを確実に知る。そういう時、外界は僕等と無関係になり、思いは屈し、僕等は無気力に、怠惰になり、時間

はそこで途絶える。僕等は悲劇的な感情を味わい、それに満足し、自分の心が鎖されるままにし、それを孤独だと呼ぶ。それは消極的な、非活動的な、萎縮した孤独である。詩や小説の題材としての孤独は、それで足りる。ウエルテルの悲しみは、読者にその悲しみを追体験させることで人のおのの持つ孤独を意識させる。が、誰もウエルテルに倣って自殺しようとは思わない。作品の発表後に、多くのウエルテル病患者が自殺したからといって、ゲーテは彼の描き出した絶望的な孤独に責任を持つ必要はない。真似をした馬鹿者たちが、果してウエルテルほどに孤独を痛感していたとは思われない。ゲーテがその作品を書くことによって、彼の経験した消極的な、従って閉鎖的な孤独を、より積極的な、解放的なものに引き上げたその秘密は、これらの読者にはまったく理解できなかったわけである。そこに芸術と人生との相違が横たわっている。絶望的な作品の真の効用は、読者がそれを追体験することによって、そのような種類の絶望を乗り越えさせる点にある。それは免疫ということに似ている。折角のワクチンで本当に病気に罹るといふのでは馬鹿げている。

しかし自分自身の経験として或る悲劇に直面した場合に、人は自分自身の力によってしかその傷を癒すことは出来ない。彼は自分の心のほかに真に相談する相手を持たず、自分の舌以外に傷痕を嘗めてくれる友を持たない。失恋した少女が新聞の身上相談欄に投書したところで、彼女が聞かされるものは一般的な、最大公約数的な意見で、彼女自身の特殊な場合に当てはまる特効

薬を授けてもらえるわけではない。彼女は自分ひとりで考え、遂には彼女自身の方法を思いつくだろう。大きな心には大きな智慧ちえが、小さな心には小さな智慧が、それぞれ浮び、どのような愚かな心にも、自分の悲劇を乗り越えて進む力のようなものが湧いて来るだろう。それが芸術に表された孤独とは違った、人生の智慧という意味での、より積極的な、強靱きょうじんな、孤独である。



## 内なる世界

人は生れながらに彼に固有の世界を持っている。その世界は謂わば孤独というのと同義なのだ。決して悲劇的な、閉鎖的なものではない。それは充足した、円満な、迸り出る世界である。一人で遊んでいる赤ん坊を見る時に、僕等はそれが完全な幸福の状態である事に気がつくだろう。赤ん坊は太陽の暖かい光線の方に顔を向ける。傍らにあるものを掴んで、小さな手の中でその形、その重さをたしかめる。かすかな物音に耳を澄ます。その意識の中では、恐らくは外界の時間と内部の時間とが微妙に調和し、思考というものはその原型のまま本能の形を採って流れ、感情もまた原始的な無垢の状態を保っている。赤ん坊の持つ孤独は人を微笑させる。その孤独には、他人を傷つけるものも、自分を傷つけるものもない。もし閉鎖的という言葉を使うならば、この孤独は完全に閉鎖的であり、しかも同時に充足的である。それは一つの美しい矛盾をなしている。

しかしエゴが目覚めて来ればそうは行かない。閉鎖的であれば、それは必ずや不完全な状態になるし、心が外界にさ迷い出れば孤独というものは喪われる。人が一般に自分の孤独に気がつくのは、自分の心に何ものかが欠け落ちているのを知る時である。その要因は自分から来ることも